

あなたも東京民研へ

2019年度研究員を募集

東京民研部会紹介

東京民研では、2019年度研究員を募集しています。厳しい職場でも辛い仕事でも、子どもと教育のことを一緒に学んだり研究したりする仲間がいれば安心、元気になります。

左記の紹介文をお読みになり、研究員を希望される方は都教組の各支部・地区協へ連絡してください。

(ほかに、紹介文には掲載されていませんが**幼年教育部会**、**教育評価部会**もありますので、希望される方はご連絡をお願いします)

研究部会

代表者

国語

金田一淳子

「初任者研修と違い、すごく勉強になる。とても魅力的な研究会」と若者にも大好評です。現場が厳しい今だからこそ、子どもと共に創る楽しい授業の報告は感動的です。常に「読みの力とは」「なぜ書かせるのか」等本質的な論議がなされ、深く学べます。ぜひ、ご参加ください。

外国語

安野 寿美

少人数制授業・オリパラ教育・小学校英語教科化・パフォーマンステスト・四技能入試、矢継ぎ早に進められる政策の中で、外国語教育の行く末は不透明感を増しています。教育としての軸を失わず、日々の教育に立ち続けるために、私たちは仲間と共に研究をしています。

算数・数学

岩村 繁夫

エデュカス東京・練馬・世田谷のどこかで毎月部会を開いています。エデュカスでは習熟度別授業の批判的検討に続き、各地の「スタンダード」についても分析する予定です。練馬と世田谷では、授業実践の交流や教育史の学習会をしています。ご参加下さい。

社会科

坂爪 邦雄

昨年度は参加者を広げるため、「だれでも」ちょっとした工夫でできる」をテーマに公開講座を行いました。会場も多摩と区内と交代で実施、討論が教科書分析まで発展することもありました。ベテランと青年が一緒に学べる部会です。「こんな工夫をしました」という報告も大歓迎。

理科

高鷹美恵子

理科部会は、小・中・高校の先生が、自然科学の基礎基本を子どもたちのものにしていくには、何が大切かという視点で自由に話し合っています。今年度は新学習指導要領を検討しています。

毎月第2木曜日にエデュカスで部会をしています。参加お待ちしています。

美術

竹内 美弥

「表現」することはどの子にとってもかけがえのないもの、人格形成と結びついた美術教育をという思いで日々の実践交流をしています。夏には自画像・写生画・デザインの作品を囲んで、子どもたちのリアルな姿や特に評価についての議論を深めました。一緒に学び合いましょう。

音楽

高田千津子

「音楽を通して学校に豊かな文化を」をテーマに、年一・二回の公開授業を行っています。部員の実践を交流し、東京民研や東京教研の学びの場で確かめられてきた教材を的確に子どもたちに渡し、豊かな授業をつくりだす努力を重ねています。興味のある方は、ご参加ください。

技術科

内田 康彦

東京では学校選択制度によって、学級減になっている学校に講師対応が増え、講師登録されている人数では足りない現状があります。ピンチはチャンス、立場の違いを乗り越えて、より多くの仲間と交流し学習を進めていくことで連携を図っていきたいと考えます。

家庭科

谷内 香子

子どもたちをとりまく生活そのものを題材にしている家庭科。いのちとくらしを守るためにどうしたらよいか、主催者の視点で学ぶ授業とはどんなことなのか、子どもたちが生き生きと学習する明日の授業に生かせる実践交流をしています。

保健体育

岩崎 明美

年一度、教員対象に水泳教室を行っています。水泳教室では、自分たちが楽に上手に泳げるようになることを目指しながら、子どもたちも長い距離をいろいろな泳法で楽に上手に泳げるようになる指導法を、参加者とともに学び合いながら実技を行っています。ぜひ一緒に。

生活科

高鷹 敦

低学年教育で大事なものは読み・書き・算だけではなく、自然や社会から自分の感覚で事実をとらえ、言葉にして表現し、友だちと言葉を通して理解し合えるようにすることも重要です。教科書の生活科ではこうした学習方法も、本質的な内容も大切にされません。

学校保健

橋本 明美

養護教諭の仕事は、健康診断や子どもたちとの日々のかかわりの中で、子どものからだや心の実態をつかみ、子どもの訴えに耳を傾け、まるごと受け止めることから出発しています。子どものからだと心の状況について、大いに交流し、保健室から発信するために議論しましょう。

進路指導

岩井 紀子

子どもも教員も投げ込まれている構造的な格差と競争社会。その下で、今、学校・学校教育はどのようなようになっているのか。子どもはどこにもって行かれようとしているのか。子どもの目に何が映っているのか。実状をうんと交流し、中等教育の課題を追究していきたい。

障害児教育

杉山 敏夫

「国語だいすき!せんせい つぎ なにやるの」という、子ども理解と授業づくりを基本理念とした冊子を出版しました。特別支援教育、いや教育の個別・具体・普遍・独自性にこだわって、毎月の部会で現職教師たちが障害児教育の「今」の場での実践を深め合っています。

生活指導

井本 宗近

部会では、今年度「学校スタンダード」の弊害について調査・研究をすることにしています。学校のきまり的なものから、授業スタンダードのような「授業規律」的なものまであります。子どもたちを縛り、教師自身も縛る「スタンダード」の批判検討をいっしょに!

職場の民主化

西田 昭司

人格の完成をめざす教育は、教職員が自由に意見が言えて、民主的に物事が決められる職場でなければ実現できません。そんな職場をどうつくっていくのか、どんな努力をしたらよいか、そんなことを研究しています。

教育条件整備

亀井 雄一

当部会では、①学校事務の実践交流②貧困・格差問題など、子どもと教育をとりまく様々な状況についての学習・論議③学校事務の「共同実施」・標準的職務論・教職員定数問題など学校事務職員制度についての論議、以上を通じて、学校事務職員の役割を中心に研究します。

学校給食

渡邊 麻季

部会では、給食・食育など食の課題について自由に意見交換をし、食を楽しみ、行動を変容させ、力強く人生を生き抜く子どもの育成を目指し研究しています。部員は、学識経験者・小中学校教職員・栄養教諭・児童福祉施設栄養士など様々です。関心のある方、お声かけください。

地域・学校づくり

松本 恭子

子どもも保護者も学校も、ゆとりのない毎日。学校には、子どもや教職員を一層苦しめる「働き方」改革と称した変形労働時間制も持ち込まれようとしています。みなさん、ぜひ参加して、地域や学校のようにすや課題、取り組みについて交流し、学び合いませんか。参加を待っています。

平和教育

佐藤 康高

子どもたちと一緒にいのちと平和の尊さを学ぶとくみを広げるため、教材づくりや実践交流をすすめています。次回は、ドイツの人々が戦争をどのようにに次世代に伝えようとしているかを考えます。戦災孤児の証言を通して戦争を考える教材づくりにも挑戦したいと考えています。

道徳（心の教育）

矢澤 正道

多くの道徳教科書は年間時数と同じ35単元、分冊付きや「道徳ノート」使用など「教科書通り指導せよ」の強まりを感じます。「道徳の授業を考える会」とともに「どうする？道徳の授業」を発行しました。ご活用ください。引き続き、教材の分析と授業づくりを研究していきます。

ジェンダーと性の教育

天沼 文

毎月、第四金曜日の夜、エデュカスで部会を開いています。今年度は、足立区の性教育に対する介入を許さない活動をしたり、中学校の道徳の教科書をジェンダー視点から検討したりしました。まだまだ多い不平等に目を向け、人権を大切にする教育を進めたいと考えています。

文化活動

山川 政志

学校では、増えた授業時数のため子どもたちの感性を豊かにする文化活動や学芸会、演劇教室などがどんどん削減されています。そうしたなかでも、より良い文化を子どもたちにと頑張っている現場もあります。そうした実践や経験を持ち寄り、交流しあいましょう。

2018年度

東京民研総括集会

今年度、次期学習指導要領の前倒しによる「道徳」の教科化や移行措置による小学校「英語科」の実施など学校は困難な課題を押し付けられてきました。来年度は小学校の教科書採択もあります。これらの課題に取り組むために、今年度の研究・実践を総括し、確認していきましょう。

日時 2019年3月23日（土）10:00～16:30

会場 エデュカス東京地下会議室